

都市再生整備計画 事後評価シート
日田市中心市街地地区

令和5年3月

大分県日田市

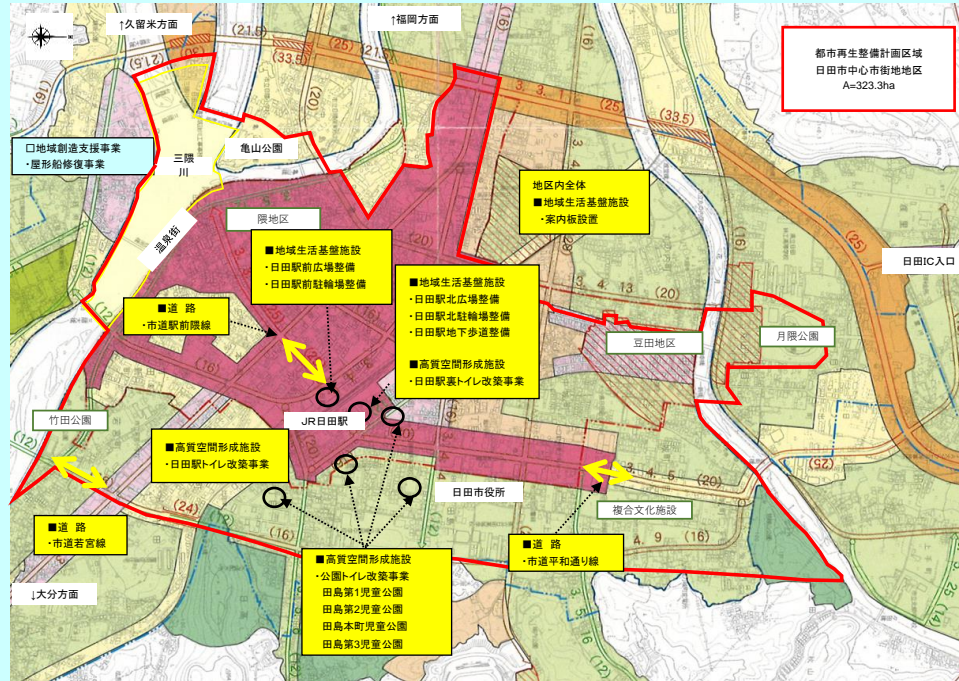
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県		市町村名	日田市		地区名	日田市中心市街地地区		面積	323.3ha				
交付期間	平成28年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和4年度		交付対象事業費	1,143.5百万円	国費率	40%					
1) 事業の実施状況	事業名													
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道若宮線・市道平和通り線・市道駅前限線)、地域生活基盤施設(日田駅前広場整備・案内板設置)、高質空間形成施設(日田駅トイレ改築・日田駅裏トイレ改築・公園トイレ改築)											
		提案事業	地域創造支援事業(屋形船修復)											
	事業名													
	当初計画から削除した事業	基幹事業												
		提案事業	事業活用調査(事後評価)											
新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(日田駅前駐輪場整備・日田駅北広場整備・日田駅前駐輪場整備・日田駅地下歩道整備)												
	提案事業													
交付期間の変更	当初	平成28年度～令和2年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		平成29年の九州北部豪雨の影響により当初計画期間内の事業完了が困難となったため事業期間を1年延長したものの、そのため事業、指標、数値目標への影響はない。								
	変更	平成28年度～令和3年度												
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	指標1	日田温泉の宿泊客数	人	77,761人/年	H25	84,000人/年	R3	-	24,630人/年	×	あり なし	●	大きな要因は新型コロナウイルスによる観光客の減である。	-
	指標2	豆田地区への来街者数	人	299,378人/年	H25	300,000人/年	R3	-	68,437人/年	×	あり なし	●	大きな要因は新型コロナウイルスによる観光客の減である。	-
	指標3	豆田地区の通行者数	人	1,902人/9h	H24	2,000人/9h	R3	-	2,120人/9h	○	あり なし		日田駅周辺事業や案内板設置の効果等により豆田町の通行人数は維持されている。	-
	指標4										あり なし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	その他の数値指標1	日田駅前広場のイベント等の開催件数	件	2	H30			-	39				日田駅前広場整備の効果により、イベント等が開催され活性化が図られた。	-
	その他の数値指標2													
その他の数値指標3														
4) 定性的な効果発現状況														
5) 実施過程の評価	実施内容													
	実施状況													
	今後の対応方針等													
	モニタリング			-		都市再生整備計画に記載し、実施できた				次期計画を策定する場合は、必要に応じて数値計測等のモニタリングを行う。				
住民参加プロセス			駅前広場整備に関する検討委員会の設置 駅北広場整備に関するワークショップの開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた				次期計画を策定する場合は、計画作成段階から住民参加の機会を設ける。					
			-		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				○					
持続的なまちづくり体制の構築			-		都市再生整備計画に記載し、実施できた				まちづくり活動を通じて、持続可能な体制づくりに努めていく。					
				-		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式 2-2 地区の概要

日田市中心市街地地区(大分県日田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 歴史・観光を切り口に、豊かで特色ある地域資源を活かした中心市街地の賑わいの創出 目標1: 温泉街や三隈川などの地域資源が豊富な限地区の再生。 目標2: 歴史・観光拠点としての豆田地区の魅力強化。	日田温泉の宿泊客数	単位: 人 77,761人/年 H25	84,000人/年 R3	24,630人/年 R3
	豆田地区への来街者数	単位: 人 299,378人/年 H25	300,000人/年 R3	68,437人/年 R3
	豆田地区の通行者数	単位: 人 1,902人/9h H24	2,000人/9h R3	2,120人/9h R4
		単位: 人 H	H	H
		単位: 人 H	H	H



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・日田駅前広場の整備により、民間主導のイベント等が開催され、中心市街地の賑わいの創出が図られた。 ・市道整備、案内板、各公園トイレの整備等により、観光客等が快適に回遊できる環境の整備ができた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる観光振興に努め、官民連携を図りつつ民間の力を最大限活かしながら、外部流入人口と定住人口の増加を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式 1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式 1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
- 添付様式 2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式 2-② その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測
- 添付様式 2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式 3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式 3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式 3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式 4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式 4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式 4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式 5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式 5-② まちの課題の変化
- 添付様式 5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式 5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式 5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式 6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式 6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式 7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式 8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式 9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式 1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他 ()		●			

添付様式 1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況 (事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道駅前限線	26.0	L=230m	34.0	L=228.7m	事業費・施工延長の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
道路	市道平和通り線	20.0	L=90m	14.7	L=90.8m	事業費・施工延長の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
道路	市道若宮線	6.0	L=60m	20.0	L=108m	事業費・施工延長の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	案内板設置	35.0	13箇所	3.1	50箇所	事業費・施工箇所の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
地域生活基盤施設	日田駅前広場整備事業	320.0	A=5,200㎡	453.5	A=5,200㎡	事業費の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
地域生活基盤施設	日田駅前駐輪場整備事業	-	-	3.7	A=120㎡	観光客の回遊性向上のため事業追加。	全ての指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	日田駅北広場整備事業	-	-	186.1	A=2,136.46㎡	観光客の回遊性向上のため事業追加。	全ての指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	日田駅北駐輪場整備事業	-	-	10.1	A=120㎡	観光客の回遊性向上のため事業追加。	全ての指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	日田駅地下歩道整備事業	-	-	321.9	L=81m	観光客の回遊性向上のため事業追加。	全ての指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
高質空間形成施設	日田駅トイレ改築事業	30.0	A=58㎡	29.6	A=69.56㎡	事業費・施工面積の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
高質空間形成施設	日田駅裏トイレ改築事業	18.0	A=22㎡	11.8	A=22㎡	事業費の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
高質空間形成施設	公園トイレ改築事業	33.0	3箇所	41.4	4箇所	事業費・施工箇所の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業 (都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式 1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー 環境整備事業									
優良建築物等 整備事業									
住宅市街地 総合整備 事業									
街なみ環境整 備事業									
住宅地区改良 事業等									
都心共同住宅 供給事業									
公営住宅等整 備									
都市再生住宅 等整備									
防災街区整備 事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	屋形船修復事業	64.0	16艘	13.6	11艘	事業費の変更。豪雨災害での流出による事業対象の減。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
事業活用調査	事後評価の実施に関する調査	5.0	-	-	-	事後評価の直営への変更による事業削除。	目標及び指標への影響はなし。		
まちづくり 活動推進事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
豆田町伝統的建造物群保存地区復元整備		豆田町伝統的建造物群保存地区： 伝統的建造物群の修理、歴史的水路の復元の修景等	-	-	H17～永年	H17～永年	事業実施中	事業主体：日田市	
豆田地区街なみ環境整備		豆田地区都市景観形成地区： 生活環境施設、案内板や防災設備の整備、道路美装化、建築物/工作物の修景	300	300	H27～H31	H27～H31	事業完了	事業主体：日田市	
都市計画道路丸山五和線整備		丸山五和線： 都市計画道路の整備	4,200	5,271	H4～H28	H4～H28	事業完了	事業主体：日田市	
都市計画道路友田公園線整備		友田大原公園線： 都市計画道路の整備	974	1,000	H22～H28	H22～H29	事業完了	事業主体：日田市	
アダプトプログラム		市内の道路等： 環境維持管理の推進	(参考) 40万円/年	(参考) 40万円/年	H14～永年	H14～永年	事業実施中	事業主体：日田市	

添付様式 2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値 (エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	事後評価	あり	なし			
指標 1	日田温泉の宿泊客数	人/年	日田温泉宿泊者調査の数値とする。評価値は、令和3年の数値とする。	77,718	H21	77,761	H25	84,000	R3	モニタリング	●	24,630	モニタリング	×		●
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標 2	豆田地区への来街者数	人/年	毎年行われる豆田町観光動態調べの数値とする。評価値は、令和3年の数値とする。	592,134	H21	299,378	H25	300,000	R3	モニタリング	●	68,437	モニタリング	×		●
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標 3	豆田地区の通行者数	人/9h	市が都市再生整備計画のため行う交通量調査の数値とする。評価値は、令和4年の数値とする。	1,967	H21	1,902	H24	2,000	R3	モニタリング	●	2,120	モニタリング	○		
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標 4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標 5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標 1	宿泊客数は、評価値が24,630で目標値の84,000に達しておらず、新型コロナウイルス感染症の流行による観光客数の減からの回復時期も見込めないため目標達成度は×とした。	
指標 2	来街者数は、評価値が68,437で目標値の300,000に達しておらず、新型コロナウイルス感染症の流行による観光客数の減からの回復時期も見込めないため目標達成度は×とした。	
指標 3	通行者数は、評価値が2,120で目標値の2,000に達しており、目標達成度は○とした。	
指標 4		
指標 5		

添付様式2-② その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指 標		データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値 (ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課 題等)	
			単 位	単 位	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	備考			
その他の 数値指標 1	日田駅前広場のイベント 等の開催件数	件	R3年度の使用申請件数より	-	-	2	H30	モニタリング	-	-	日田駅前広場のイベント開催 件数の推移は、中心市街地の 賑わい創出の状況を表すと考 えられるため	-
								事後評価	確定 見込み	●		
その他の 数値指標 2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標 3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定はなかったが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定はなかったが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
JR日田駅前広場整備事業検討委員会の設置及びパブリックコメントの実施	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定はなかったが実施できなかった (理由)	○ 地元自治会・商店街等を委員とする検討委員会を設置して、H28.2～H29.11まで7回審議を行った。またパブリックコメントをH28.8に行った。意見等は整備内容に反映した。	-
日田駅北口広場整備計画ワークショップの開催及びパブリックコメントの実施	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定はなかったが実施できなかった (理由)	○ 地元住民等を委員とするワークショップをH30.6～H30.9まで4回開催した。またパブリックコメントをH30.12に行った。意見等は整備内容に反映した。	-

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定はなかったが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定はなかったが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3							
指標名		豆田地区の通行者数							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【道路】市道駅前隈線	○	日田駅周辺事業や案内板設置の効果等により豆田町の通行者数は維持されている。						
	【道路】市道平和通り線	○							
	【道路】市道若宮線	○							
	【地域生活基盤施設】案内板設置	◎							
	【地域生活基盤施設】日田駅前広場整備事業	◎							
	【地域生活基盤施設】日田駅前駐輪場整備事業	◎							
	【地域生活基盤施設】日田駅北広場整備事業	◎							
	【地域生活基盤施設】日田駅北駐輪場整備事業	◎							
	【地域生活基盤施設】日田駅地下歩道整備事業	◎							
	【高質空間形成施設】日田駅トイレ改築事業	◎							
提案事業	【高質空間形成施設】日田駅裏トイレ改築事業	◎							
	【高質空間形成施設】公園トイレ改築事業	○							
	【地域創造支援事業】屋形船修復事業	○							
関連事業	豆田町伝統的建造物群保存地区復元整備	◎							
	豆田地区街なみ環境整備	◎							
	都市計画道路丸山五和線整備	○							
	都市計画道路友田公園線整備	○							
	アダプトプログラム	○							

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も必要に応じて調査を行い、数値の把握を行う。			
-------	--------------------------	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1			指標2								
指標名		日田温泉の宿泊客数			豆田地区への来街者数								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	【道路】市道駅前限線	△	宿泊客数は評価値が24,630人で目標値の84,000人に達していない。大きな要因は新型コロナウイルスによる観光客の減である。	III	△	来街者数は評価値が68,437人で目標値の300,000人に達していない。大きな要因は新型コロナウイルスによる観光客の減である。	III						
	【道路】市道平和通り線	△			△								
	【道路】市道若宮線	△			△								
	【地域生活基盤施設】案内板設置	△			△								
	【地域生活基盤施設】日田駅前広場整備事業	△			△								
	【地域生活基盤施設】日田駅前駐輪場整備事業	△			△								
	【地域生活基盤施設】日田駅北広場整備事業	△			△								
	【地域生活基盤施設】日田駅北駐輪場整備事業	△			△								
	【地域生活基盤施設】日田駅地下歩道整備事業	△			△								
	【高質空間形成施設】日田駅トイレ改築事業	△			△								
提案事業	【高質空間形成施設】日田駅裏トイレ改築事業	△											
	【高質空間形成施設】公園トイレ改築事業	△											
	【地域創造支援事業】屋形船修復事業	△											
関連事業	豆田町伝統的建造物群保存地区復元整備	△			△								
	豆田地区街なみ環境整備	△			△								
	都市計画道路丸山五和線整備	△			△								
	都市計画道路友田公園線整備	△			△								
	アダプトプログラム	△			△								

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<ul style="list-style-type: none"> ・日田市全域でのイベント開催 ・特色ある地域資源を活かした観光拠点のPRを含めた情報発信 ・民間団体主体によるイベント取組促進 	新型コロナウイルス流行前のR1年度は477,036人で目標値を達成していた。流行終息による観光客数の回復に期待しつつ、イベント開催等の支援を行う。		
------------------	---	---	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
・市民文化会館建設や中央公園整備、本庄元町線等のインフラ整備を中央地区の商店街活性化に繋げていく必要がある。	市道駅前限線整備により、中央地区の商店街の環境が整った。	今後も中央地区の商店街活性化を図っていく必要がある。	
・豆田地区の無電柱化事業や伝統的建造物修復事業、月限公園内の園路整備等により観光客の増加が図られたが、この観光客を隈地区や中央地区、市内各地区へ回遊させる必要がある。	市道整備事業や駅周辺事業により、観光客の回遊性が高まった。	-	
・隈地区は豆田地区に比べると観光客数も少なく、今後はさらに「水郷ひた」の象徴である三隈川を活用した新たな賑わいの創出を促進していく必要がある。	屋形船修復事業により、賑わいの創出を促進できた。	今後も継続的にまちの魅力向上を図っていくためには、市民が主体となったまちづくり活動が必要であるため、まちづくりの担い手の発掘・育成が課題である。	-
・豆田地区、中央地区、隈地区の回遊性を向上させるとともに、徒歩や自転車での移動を視野に入れ、各地域間に見所箇所等の整備を促進していく必要がある。また、中央地区においては、街独自の魅力を模索し、活性化を促進させる必要がある。	市道整備事業・駐輪場整備事業により、回遊性の向上や徒歩・自転車での移動促進ができた。また、中央地区の駅前広場整備により民間主導のイベント等が開催され新たな賑わいの創出が図られた。広場整備と併せて駅舎には民間企業によるカフェ・ゲストハウスがオープンし、更に駅前広場には人気漫画「進撃の巨人」のリヴァイ兵長の銅像が設置され、新たな見所となり日田独自の魅力を発信している。	-	

＊ これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	観光客が快適に回遊できる環境を維持する。	情報発信や広場・トイレ・道路の適切な管理を行う。	・指定管理者制度 ・道路補修

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	限地区の賑わい創出	・イベントの実施支援等により、限地区の来訪者と日田温泉宿泊者の増を図る。 ・まちづくり団体の再構築(再生)により、活動の活性化を図り、地区の魅力向上と情報発信を促進する。	・イベントの実施支援 ・限まちづくりセンター(黎明館)の活用 ・観光案内所等の設置 ・人材発掘支援

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

駅前広場の整備により、イベント実施等の活性化ができた。イベント開催等の流れを駅前以外にも広げることにより、中心市街地全体の活性化が必要である。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標 1	日田温泉の宿泊客数	人/年	77,761	H25	84,000	R3	確定 ●	24,630	×	あり ●	-	観光課所有データ	新型コロナウイルスの影響により実施は未定。
指標 2	豆田地区への来街者数	人/年	299,378人	H25	300,000	R3	確定 ●	68,437	×	あり ●	-	観光課所有データ	新型コロナウイルスの影響により実施は未定。
指標 3	豆田地区の通行者数	人/9h	1,902人	H24	2,000	R3	確定 ●	2,120	○	あり			
指標 4				H		H	確定			あり			
指標 5				H		H	確定			あり			
その他の数値指標 1	日田駅前広場の使用申請数	件/年	-	-			確定 ●	39					
その他の数値指標 2				H			確定						
その他の数値指標 3				H			確定						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	豆田地区の通行者数は目標値を達成できた。	情勢の変化等に応じて、柔軟に目標の変更も検討する。
	うまくいかなかった点	連発する災害によるハード・ソフトを含めた被害や新型コロナウイルスの流行により2つの指標が達成できなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	駅周辺事業や案内板設置により、観光客の回遊性・利便性が向上して、豆田町の通行者数の増につながった。	目標達成に効果的な事業を行い、地区の活性化を図る。
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	駅前・駅北広場整備において住民の意見を取り入れながら整備を行えた。	ワークショップ・アンケート等を活用する。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる 事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事業追加・削除等の見直しを随時行ったため、効果的に計画を執行できた。	事業実施中も必要に応じて柔軟に変更等を行う。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和5年1月中旬～下旬	令和5年1月中旬～下旬	担当課への意見書・ メール・FAX・電話	都市整備課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	意見等提出無し				
-------	---------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式 8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	大分大学理工学部 教授 小林祐司	令和5年2月6日(月)	都市整備課	日田市まちづくり交付金事業評価委員設置要綱	独自に設置
その他の委員	日田商工会議所 会頭 十時 康裕 日田市観光協会 事務局長 黒木 陽介 日田旅館組合 諫山 泰崇				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	
	成果の評価	評価結果について了承された。
	実施過程の評価	モニタリングと住民参加のプロセスについて、委員会での意見を踏まえた加筆を行うことで了承された。
	効果発現要因の整理	効果発現要因の整理について了承された。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案が、市民に対して適正に公表されたことが確認された。
	その他	
	事後評価の手続きは本当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きが妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・更なる観光振興に努め、官民連携を図りつつ民間の力を最大限活かしながら、外部流入人口の増加を図る。
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策案に「定住人口増加」を加筆することで、妥当であると確認された。
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理（添付様式5）、今後のまちづくり方策の検討（添付様式6）、評価委員会の審議（添付様式9）以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--

都市再生整備計画(第4回変更)

ひ た し ちゅうしんし が い ち
日田市中心市街地 地区

おおいた ひ た し
大分県 日田市

令和4年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大分県	市町村名	ひたし 日田市	地区名	ひたしちゅうしんしがいち 日田市中心市街地 地区	面積	323.3 ha
計画期間	平成 28 年度 ~ 令和 3 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 令和 3 年度				

目標

大目標: 歴史・観光を切り口に、豊かで特色ある地域資源を活かした中心市街地の賑わいの創出

目標1: 温泉街や三隈川などの地域資源が豊富な隈地区の再生。

目標2: 歴史・観光拠点としての豆田地区の魅力強化。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

日田市の中心市街地は、三つの区域(中央、豆田、隈)で形成されている。中央地区は、交通、商業・文化機能が集積した市民生活の拠点地区である。一帯は、土地区画整理事業等により街並みが整備され、賑わいを見せてきたが、近年は居住人口の減少で空洞化が進んでいる。中央地区を南北に挟む豆田地区や隈地区は、旧市街地として歴史的佇まいの溢れる地区であり、中でも豆田地区は、昭和50年代から歴史的な町並みを活かしたまちづくりが官民協働で展開され、平成16年には、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受け、今日では多くの観光客が訪れる本市の観光拠点となっている。一方、三隈川沿いに温泉旅館が立地している隈地区は、歴史的町並みと水辺環境を活かした観光の活性化や商業機能の強化が求められる地区である。

このような状況の中、平成23年度～平成27年度にかけて都市再生整備計画事業を活用して、各種施設整備や複合文化施設整備事業など、歴史的町並み景観の形成と拠点整備により豆田地区では観光客の増加が図られたが、中央地区・隈地区への回遊が図られず、総合的なまちづくりが引き続き求められている。

課題

- ・市民文化会館建設や中央公園整備、本庄元町線等のインフラ整備を中央地区の商店街活性化に繋げていく必要がある。
- ・豆田地区の無電柱化事業や伝統的建造物修復事業、月隈公園内の園路整備等により観光客の増加が図られたが、この観光客を隈地区や中央地区、市内各地区へ回遊させる必要がある。
- ・隈地区は豆田地区に比べると観光客数も少なく、今後はさらに「水郷ひた」の象徴である三隈川を活用した新たな賑わいの創出を促進していく必要がある。
- ・豆田地区、中央地区、隈地区の回遊性を向上させるとともに、徒歩や自転車での移動を視野に入れ、各地域間に見所箇所等の整備を促進していく必要がある。また、中央地区においては、街独自の魅力を模索し、活性化を促進させる必要がある。

将来ビジョン(中長期)

当計画地域の範囲は、「日田市中心市街地活性化基本計画」(平成12年3月策定)に基づいたものであり、計画では、日田市の「顔」となる魅力ある市街地の空間形成や多様な商業機能の充実強化のため、歴史的な豆田地区と隈地区、及び中央地区での観光交流の活発化、交通拠点の整備などが位置付けられている。

また、市町村合併時に策定された「新市建設計画」でも、「市街地形成ゾーン」として、歴史・観光拠点、行政・文化・福祉拠点として位置づけ、さらに「第5次日田市総合計画」(平成19年3月策定)では、将来の都市像を「人と自然が共生し、やすらぎ・活気・笑顔に満ちた交流都市」と定め、中心市街地は、「特色ある地域区間の創出」を基本とし、地域資源を生かした魅力あふれる温泉街や自然体験交遊拠点等の整備を図ることにしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
日田温泉の宿泊客数	人	観光動態調査による日田温泉宿泊客数	「歴史・観光拠点」としての環境整備により、宿泊客数の増加を図る。(H23_74,637人、H24_72,512人)	77,761人/年	H25	84,000人/年	R3
豆田地区への来街者数	人	当地区に立ち寄る観光客数	「歴史・観光拠点」としての環境整備により豆田の魅力アップさせ、減少させることなく来街者30万人を維持する。(H23_352,886人、H24_315,401人)	299,378人/年	H25	300,000人/年	R3
豆田地区の通行者数	人	通行量調査による御幸通りと上町通りの通行者数	周辺部や地区内の環境整備により、アクセス及び回遊性を向上させ通行者数の減少抑制を図る。(H21_1,967人、H24_1,902人)	1,902人/9h	H24	2,000人/9h	R3

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>■整備方針1(温泉街や三隈川などの地域資源が豊富な隈地区の再生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史・観光拠点」として、隈地区観光再生を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> →市道若宮線整備(基幹事業/道路) →屋形船修復事業(提案事業/地域創造支援事業)
<p>■整備方針2(豆田地区の魅力強化及び伝統的町並み環境整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝建地区や景観形成重点地区の建造物や工作物について、伝統的様式に復原あるいは修景するための指導や助成を行う。 ・来街者が快適に訪れることができ、また快適に回遊できるように周辺地域の道路の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> →豆田町伝統的建造物群保存地区(関連事業/文化庁・市)、 →豆田地区街なみ環境整備事業(関連事業/社会資本整備総合交付金事業) →市道平和通り線整備(基幹事業/道路)
<p>■整備方針3(中心市街地での回遊性を形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来街者が快適に訪れることができるよう広場整備を行う。 ・歩行者や自転車等が快適に中心市街地を回遊できるように道路やトイレの整備を行う。 ・来街者に対して、位置や方向、あるいは施設の歴史などの情報を提供するための整備を行う。 ・歩行者や自転車にとって道路を快適に維持する市民活動を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> →日田駅前広場整備(基幹事業/地域生活基盤施設) →日田駅前駐輪場整備(基幹事業/地域生活基盤施設) →日田駅北広場整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設) →日田駅北駐輪場整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設) →日田駅地下歩道整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設) →市道駅前線整備(基幹事業/道路) →日田駅トイレ改築事業(基幹事業/高質空間形成施設) →日田駅裏トイレ改築事業(基幹事業/高質空間形成施設) →公園トイレ改築事業(基幹事業/高質空間形成施設) →都市計画道路友田大原線整備事業(関連事業/社会資本整備総合交付金事業) →都市計画道路丸山五和線整備事業(関連事業/県) →案内板設置(基幹事業/地域生活基盤施設) →市内道路等(関連事業/アダプトプログラム)
<p>その他</p>	

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	1,143.5	交付限度額	457.4	国費率	0.4
---------	---------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業	事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比B/C
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
	道路		市道駅前限線	日田市	直	延長228.7m	H28	H29	H28	H29	34.0	34.0	34.0		34.0	—
	道路		市道平和通り線	日田市	直	延長90.8m	H28	H28	H28	H28	14.7	14.7	14.7		14.7	—
	道路		市道若宮線	日田市	直	延長108m	H31	R2	H31	R2	20.0	20.0	20.0		20.0	—
	公園															
	古都保存・緑地保全等事業															
	河川															
	下水道															
	駐車場有効利用システム															
	地域生活基盤施設		案内板設置	日田市	直	50箇所	H28	H29	H28	H29	3.1	3.1	3.1		3.1	—
	地域生活基盤施設		日田駅前広場整備事業	日田市	直	面積5,200㎡	H28	H30	H28	H30	453.5	453.5	453.5		453.5	—
	地域生活基盤施設		日田駅前駐輪場整備事業	日田市	直	面積120㎡	H30	H30	H30	H30	3.7	3.7	3.7		3.7	—
	地域生活基盤施設		日田駅北広場整備事業	日田市	直	面積2,136.46㎡	R2	R3	R2	R3	186.1	186.1	186.1		186.1	—
	地域生活基盤施設		日田駅北駐輪場整備事業	日田市	直	面積120㎡	R3	R3	R3	R3	10.1	10.1	10.1		10.1	—
	地域生活基盤施設		日田駅地下歩道整備事業	日田市	直	延長81m	R1	R3	R1	R3	321.9	321.9	321.9		321.9	—
	高質空間形成施設		日田駅トイレ改築事業	日田市	直	面積69.56㎡	H28	H28	H28	H28	29.6	29.6	29.6		29.6	—
	高質空間形成施設		日田駅裏トイレ改築事業	日田市	直	面積22㎡	R2	R2	R2	R2	11.8	11.8	11.8		11.8	—
	高質空間形成施設		公園トイレ改築事業	日田市	直	4箇所	H30	R3	H30	R3	41.4	41.4	41.4		41.4	—
	高次都市施設															
	中心拠点誘導施設															
	連携生活拠点誘導施設															
	生活拠点誘導施設															
	高齢者交流拠点誘導施設															
	既存建造物活用事業(高次都市施設)															
	土地区画整理事業															
	市街地再開発事業															
	住宅街区整備事業															
	バリアフリー環境整備事業															
	優良建築物等整備事業															
	住宅市街地総合整備事業															
			拠点開発型													
			沿道等整備型													
			密集住宅市街地整備型													
			耐震改修促進型													
	街なみ環境整備事業															
	住宅地区改良事業等															
	都心共同住宅供給事業															
	公営住宅等整備															
	都市再生住宅等整備															
	防災街区整備事業															
	合計										1,129.9	1,129.9	1,129.9	0	1,129.9	—

…A

提案事業(継続地区の場合のみ記載)

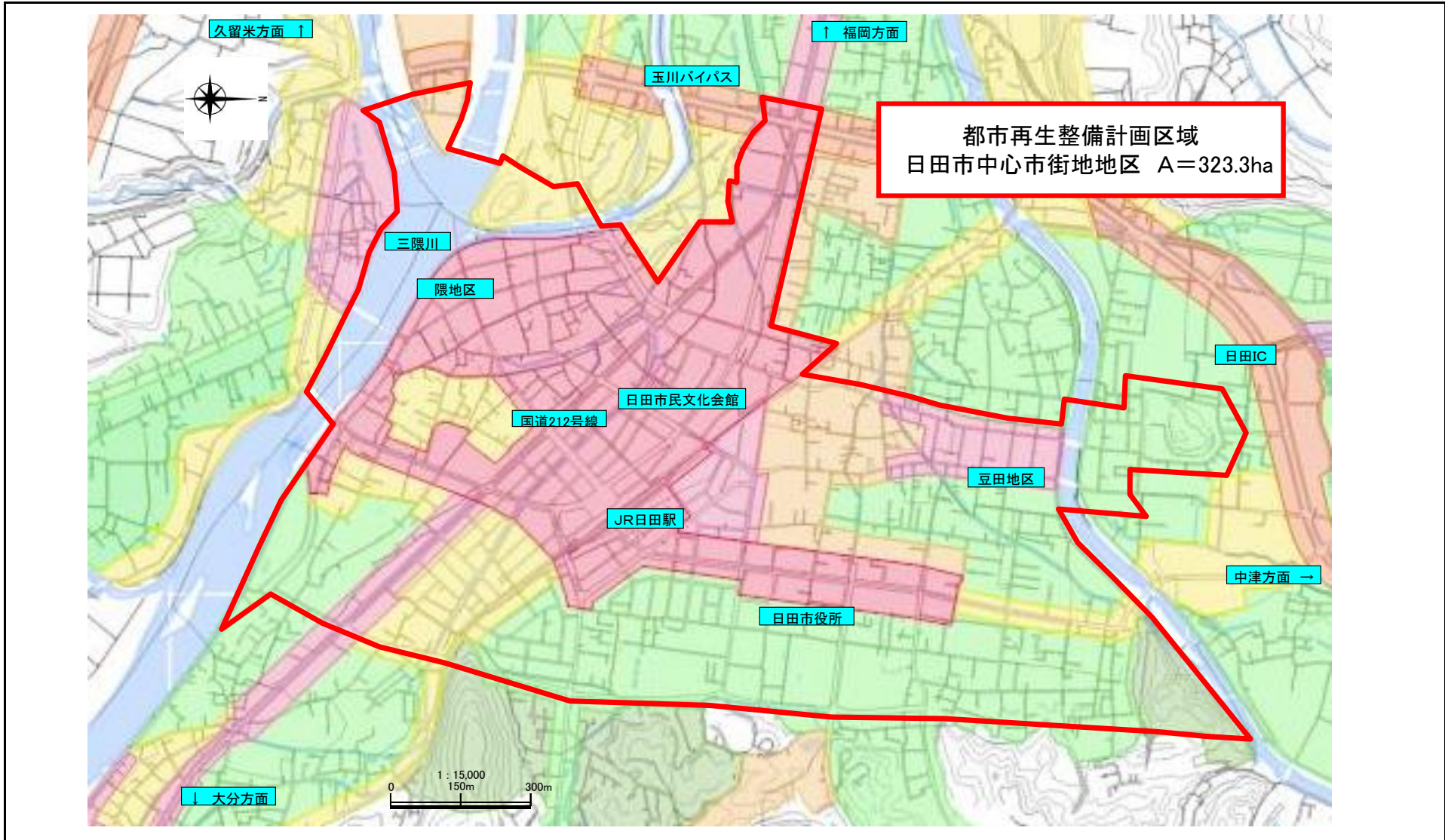
提案事業	事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
	地域創造支援事業		隈地区	日田旅館遊船共同組合	間	11艘	H28	H29	H28	H29	13.6	13.6	5.5	8.0	13.6
	事業活用調査														
	まちづくり活動推進事業														
	合計										13.6	13.6	5.5	8.0	13.6

…B

合計(A+B) 1,143.5

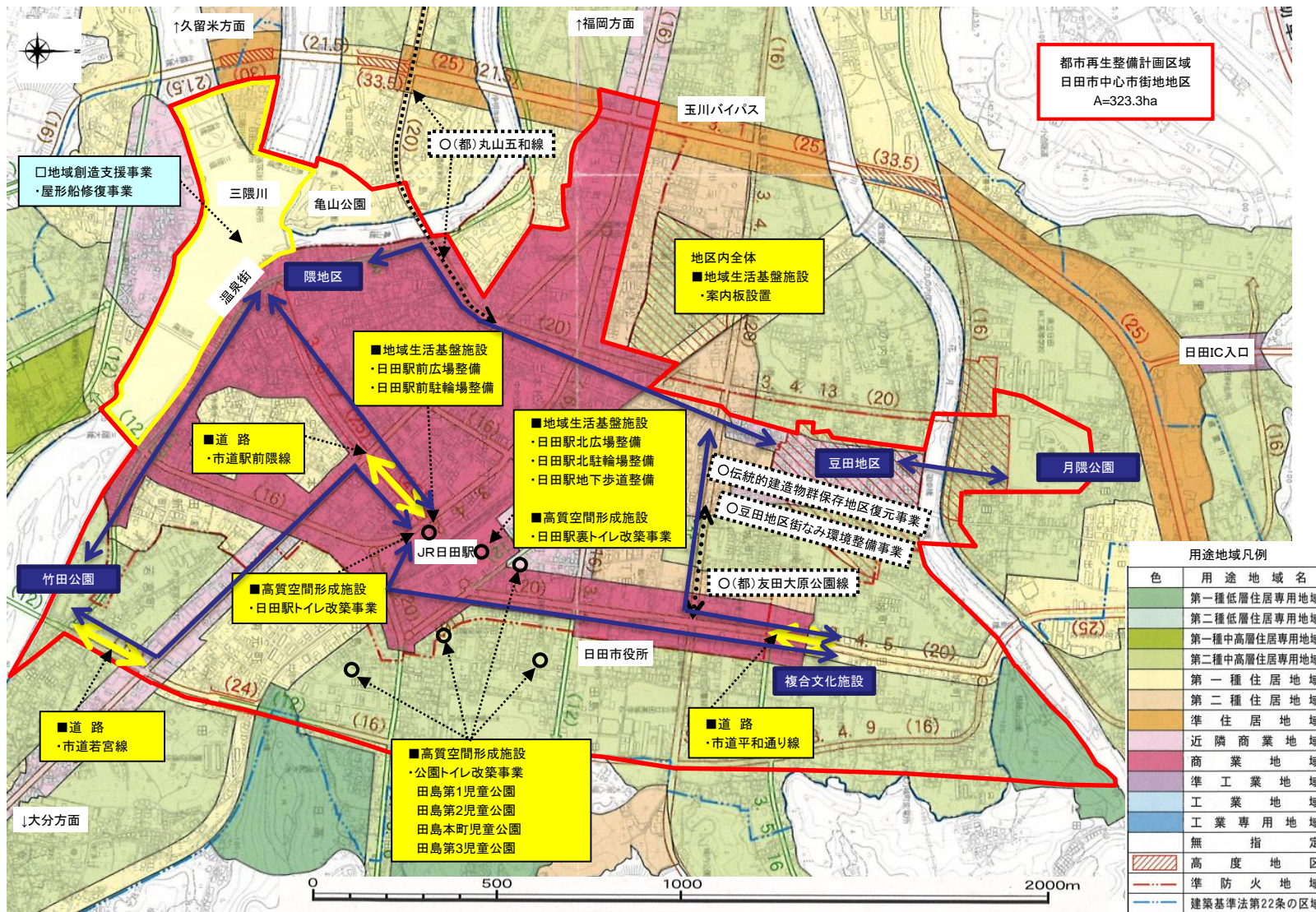
都市再生整備計画の区域

日田市中心市街地 地区(大分県日田市)	面積	323.3 ha	区域 丸山1・2丁目、豆田町、城町1丁目、港町、中城町、淡窓1・2丁目、元町、中央1・2丁目、本町、中本町、東町、隈1・2丁目、川原町、若宮町、田島1丁目、田島2丁目、上城内町、日の出町、京町、銭漕町等
---------------------	----	----------	--



日田市中心市街地地区(大分県日田市) 整備方針概要図

目標	歴史・観光を切り口に、豊かで特色ある地域資源を活かした中心市街地の賑わいの創出	代表的な指標	日田温泉の宿泊客数 (人/年)	77,761 (H25年度)	→	84,000 (R3年度)
			豆田地区への来街者数 (人/年)	299,378 (H25年度)	→	300,000 (R3年度)
			豆田地区の通行者数 (人/9h)	2,044 (H25年度)	→	2,000 (R3年度)



屋形船修復事業



豆田伝統的建造物保存地区

用途地域凡例	
色	用途地域名
浅緑	第一種低層住居専用地域
中緑	第二種低層住居専用地域
黄緑	第一種中高層住居専用地域
黄	第二種中高層住居専用地域
淡黄	第一種住居地域
黄	第二種住居地域
オレンジ	準住居地域
赤	近隣商業地域
紫	商業地域
青紫	準工業地域
青	工業地域
水色	工業専用地域
白	無指定
斜線	高度地区
赤線	準防火地域
青線	建築基準法第22条の区域

凡例	
黄色	基幹事業
青	提案事業
点線	関連事業



まち歩きルート